

ウシオの今と未来をお伝えする

P R I S M

## 第47期報告書

[2009年4月1日～2010年3月31日]

2010年6月発行

株主・  
投資家の  
皆さまへ



光のものがたり

# 光、第4世代へ

## CONTENTS

2	光のものがたり	8	第47期の事業概況	17	グループ会社紹介
4	光テクノロジー&フロンティア	10	事業別の概況	18	株式の状況
6	株主の皆さまへ	14	連結決算	19	会社概要

**USHIO**

ウシオ電機株式会社

固体光源が照らす未来

# 光、第4世代へ

ある物質（固体）に電気を流すと、物質そのものが発光し、その物質の種類を変えることで特定の波長を容易に取り出せる — それが「固体光源」です。あまりなじみのない言葉かも知れませんが、代表的なものにLEDや半導体レーザー（LD）、有機ELがあります。ランプとは全く異なる発光原理を持ち、光の進化をますます加速させているこの固体光源について、ここでは最も身近なLEDを例にご紹介します。

## 意外に古い、LED

Light=“光る” Emitting=“発する” Diode=“ダイオード（半導体）”の頭文字をとったLEDは、ろうそくやガス灯、白熱電球、蛍光灯に続く「第4の光」として注目を集めていますが、その歴史は古く、発光原理は1907年に発見されています。その後、1960年代には赤や緑、オレンジなどのLEDが実用化されましたが、色の種類が少なく、輝度も低かったため、電子機器の表示

灯くらいにしか使用されていませんでした。

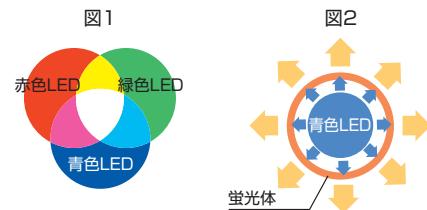
しかし、1993年の青色LEDの発表以降、光の三原色である「R（赤）、G（緑）、B（青）」の3色が揃ったことで、その掛け合わせによって「あかり」に必要な「白色」の発光が可能になりました。そして1996年、青色LEDをベースにした「白色LED」の登場により、LEDは本格的な「あかり」として普及しはじめます。発光原理の発見から、実に90年近くも後のことでした。

## “あかり”の推移



私たちに身近な「あかり」は、1810年代にガス灯が実用化されたのを皮切りに約60年ごとに大きな技術革新を遂げてきました。

## 光の三原色と白色LED

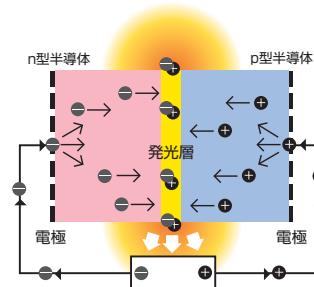


青色LEDの登場によって実現した白色発光には、光の三原色を掛け合わせてつくる方法（図1）と、青色LEDの光を蛍光体にあて、白色光を取り出す方法（図2）の2つがあり、用途によって使い分けられています。

## 固体がなぜ光る？

LEDの材料は、コンピュータなどでなじみの「半導体」です。半導体には、プラスの性質を持つ「p型半導体」と、マイナスの性質を持つ「n型半導体」があり、この2つをつなぎ合わせます。電気を通す前の半導体内には一定の電子が存在していますが、ここに電極と電線をつけて電気を流すと、それぞれの半導体内の電子が一気に増加し、飽和状態となります。半導体には元の状態に戻ろうとする性質があり、余分な電子を外に放出しようとしてします。その放出されたプラスとマイナス、それぞれの電子がつなぎ目で衝突し、その際に発生するエネルギーが光となって放射されるのです。

## LEDの発光原理（イメージ）



発光部に光をあてることでプラスとマイナスの分子を発生させ、電極・電線を通して外部に粒子を取り出し、発電させると「太陽電池」の構造となる。

## なぜ省エネ？ 長寿命？

LEDは、入力した電気を可視光に変換する効率（変換効率）が非常に良いという特長があります。入力する電気エネルギーを100%とした場合の変換効率は白熱電球で10%以下、蛍光灯で20%程度。つまり、大部分の電気エネルギーは「あかり」にはならず、紫外線や赤外線（熱エネルギー）に変換されてしまいます。

これに対し、LEDの変換効率は30~50%前後。これは、固体光源が持つ「単一波長」という特徴によるもので、不要な波長をあまり出しません。そのため、それぞれを同じ明るさにした場合、不要なエネルギーを消費しない分、LEDは消費電力が少なく済むのです。

さらに、寿命の長さもLEDの特長の1つです。白熱電球の場合、発光部であるフィラメントを燃焼させるため、長時間使用するとフィラメントがブツンと切れてしまいます。蛍光灯の場合、電極が高温で蒸発し、両側に金属蒸気が付着して黒ずんでしまいます。また管内では紫外線を放射し、それを管の内壁に塗布している蛍光体を通すことで紫外線を可視光に変換しているのですが、その蛍光体の発光効率も使用とともに低下してしまいます。

これに対し、LEDの発光部分である半導体の寿命は半永久的といわれています。それにもかかわらずLEDにも寿命があるのは、ほとんどの場合、半導体回りの部品が熱などにより劣化したり、電線が切れたりするためなのです。

## LED照明と白熱電球の特徴比較

	LED	白熱電球
高効率	30~50%前後	入力電力に対する変換効率 10%以下
省エネ	約8分の1	消費電力
長寿命	約40倍	点灯寿命
即時点灯・消灯が可能	100万分の1以下	応答時間
環境対応	0	水銀含有量



LED、半導体レーザー、有機EL…

# 固体光源が創る、新しい「光」

照明用途だけではなく、各種センサや通信、植物育成、医療、さらには半導体や液晶製造プロセスへの応用など、さまざまな分野への展開が期待されている固体光源。ウシオは、これまで培ってきた光技術をベースに、積極的に製品化を進めています。

## 固体光源の課題と現状

OA機器の原稿読み取り用光源や大型モニタのバックライトなどには、従来、希ガス蛍光ランプやクセノンランプといった「放電ランプ」が使用されていました。しかし昨今は、省エネをはじめとした環境対応、装置の小型化などのユーザーニーズを受け、LEDや半導体レーザーなど、いわゆる「固体光源」へのシフトが徐々に進んでいます。

しかし现阶段では光で「照らす」用途が中心であり、半導体や液晶、電子部品製造におけるフォトリソグラフィやUV硬化など、光を「エネルギー」として活用する産業用途へ展開するためには、光源単体での照度や輝度がまだまだ低いという課題があります。さらに、高均一、高平行など、求められる「光」の質を生み出すための「光学技術」が必要となります。

UV硬化における光源の違いと特徴

	固体光源(LED)	放電ランプ
小型化	◎	▲
消費電力	◎	▲
寿命	◎	▲
輝度	▲	◎
照度	▲	◎
波長と特長	365nmの単一波長照射。使用できる樹脂は限定されるものの、消費電力やCO <sub>2</sub> 排出量といった環境対応面では非常に優れる。	248~436nmの波長域で複数のピーク波長を持つ。幅広い樹脂に対応でき、高精度な接着位置合わせや強固な接着処理が可能。

ここで強みを発揮するのが、ウシオグループ各社の多彩な光技術です。固体光源そのものの高輝度化・高照度化をはじめ、光学ミラーやレンズ開発、モジュール設計など、これまでに培ってきたさまざまな光技術と固体光源を組み合わせ、最適化することで、これらの問題を解決し、固体光源の産業用途への展開を徐々に広げるとともに、光源の特性や用途、照射対象に最適な「光」をトータルに提案しています。

## 固体光源だからできる、新たな光の探求

波長146nmによるCO<sub>2</sub>分解、172nmによるNO<sub>x</sub>やSO<sub>x</sub>の分解、254nmによる殺菌・消毒、308nmによる皮膚治療、365nmによるUV硬化やフォトリソグラフィ、660nmによる植物育成……光エネルギーの歴史は、波長が持つ機能や効果の解明の歴史でもあります。現在、固体光源は、これらの波長を再現し、放電ランプレベルの高照度・高輝度の実現を目指した開発が進められていますが、固体光源ならではの役割が、もう一つあります。それは、単一波長照射という特長を活かした、光の新たな機能の発見です。

放電ランプの場合、必要な波長の前後にも幅広い波長が存在

しているため、用途によってはフィルタなどで余分な波長を取り除く必要がありますが、固体光源は極めて狭い範囲の波長しか照射しません。さらに、光源そのものの製造工程も、使用する半導体の材質を変えることで放電ランプより容易に特定の波長を創り出すことができます。

光源ごとの波長の違い(イメージ)



固体光源は、Al(アルミニウム)、P(リン)、In(インジウム)、Ga(ガリウム)、N(窒素)など、半導体を構成する化合物を変えることで、発光する波長を変えることができる。

生命を育む太陽光には、ありとあらゆる波長が含まれており、そのなかには、用途や機能が特定できない波長や、私たちが創り出したことがない波長も多く含まれています。

固体光源は、その開発の過程で光の謎を一つひとつ紐解き、新たな波長の作用や用途を見つけ出し、私たちの未来に有効な「光」を創り出す可能性を秘めているのです。

## ウシオの固体光源製品 (一部抜粋)



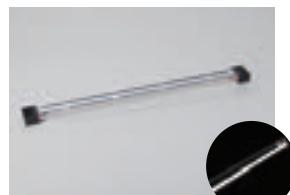
スポットUV照射装置(LED)



プロジェクタ用半導体レーザー



インクジェット硬化用高出力UV-LEDモジュール



OA原稿読み取り用LEDモジュール



近赤外線LED搭載体内可視化装置



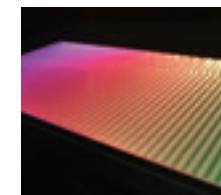
監視カメラ用赤外線LED



LEDバックライト搭載モジュール型ディスプレイ



照明用LEDフィラメント電球



LEDライトパネル



各種LED素子/デバイス



### 映像機器が成長ドライバーに

2010年3月期、日本、米国、欧州などの成熟市場では、景気悪化が下げ止まり緩やかな回復基調となりましたが、依然として高失業率が続くなど本格的回復には至っていません。その一方で、アジア経済は中国、インドが内需を中心に力強い回復に向かっており、その他のアジア地域においても総じて景気が回復しつつあります。

当社グループが密接に関係する液晶・半導体・電子部品などの市場でも、期の早い時期から稼動が回復し設備投資も増加しはじめました。しかし、UVランプのリプレイス需要が伸び悩んだことや、光学装置の売上が期の途中まで低水準で推移したため、この分野の業績は通期で前期を下回りました。データプロジェクタ用ランプや、期の後半からようやく回復の兆しが見えてきたOA用ランプも、前期を下回りました。半面、世界的な3D映画の普及による、映画館のデジタル化が一層進んだことにより、デジタルシネマプロジェクタ(DCP)や映写機用クセノンランプの需要が膨らみました。

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに、第47期(2010年3月期)報告書「PRISM」をお届けし、当期のウシオグループの事業環境や各事業の概況、および今後の取り組みについてご報告申し上げます。

### 当期の業績

当社グループでは、生産性の向上や製造コストの低減、経費の圧縮、海外展開強化に向けた販売体制の整備・拡充、海外生産シフトの促進など、全グループを挙げて業績の向上に注力した結果、売上高は前期比1.5%減の1,190億7千9百万円、営業利益は同19.0%減の72億6千2百万円、経常利益は同7.0%減の92億9千万円、当期純利益は同103.1%増の70億7千1百万円となりました。

### 今後の見通しについて

当社グループを取り巻く経営環境は、世界的な需要収縮から緩やかに持ち直しており、好調なDCP市場はもとより、需要の回復過程にある半導体や液晶パネル市場も、今後堅調に推移していくものと想定しています。中期ビジョンにおいては、重点事業である「映像・画像事業」「高密度実装事業」「露光事業」を中心に、最先端分野での研究開発の推進など、生産・販売・開発の全てにわたり諸施策を鋭意推し進め、グループ全体のさらなる事業基盤強化を図ると同時に、引き続き徹底した製造・管理

コストの低減、新製品の開発や新規分野への用途開拓、新規事業の展開を積極的に推進します。

### 固体光源への取り組み

2009年5月、ウシオ・アメリカを通じ、米国のネクセルの発行済株式49%を取得しました。ネクセルは、コンパクトで低コスト、大量生産が可能な可視光レーザ、Necsel™を保有しており、プロジェクタ市場に必要な赤、緑、青という光の三原色の波長を提供しています。また、2010年4月には、北米のグループ会社クリスティが、世界初のモジュラー型LEDディスプレイ「クリスティ® マイクロタイル™」の国内販売を開始しました。さらに同年4月、ドイツのエクストリームが、フィリップス・エクストリームUVのEUV(極端紫外)光源関連事業を全て譲り受けることで基本合意しました。2008年にグループ会社となった赤外線LEDメーカーのエピテックスを含め、これらの資本提携および買収などによって、今後も新光源や固体光源への取り組みを一層強化していきます。

### メディカル分野での事業拡大

2009年12月には、クリスティが、米国のルミネテックスを買収しました。ルミネテックスは、皮膚の表面に静脈をリアルタイムで投影する医療用機器「ペインビューアー®」を有しています。今回のルミネテックス買収によって、メディカル分野における技術開発力はさらに拡充したこととなり、これによって当社グループは、長寿命化・高齢化社会を視野においた戦略的な光ソリューションビジネスを展開してまいります。

株主の皆さまには、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2010年6月吉日

代表取締役社長・CEO

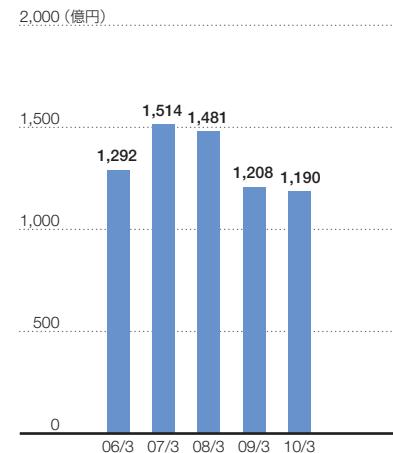
菅田史朗

### 中期ビジョン

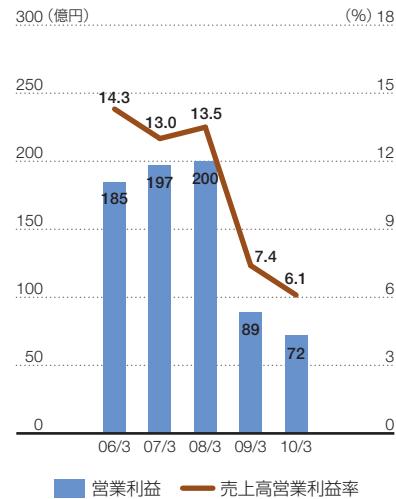
- 1. デジタルシネマ事業の着実な展開とノンシネマ事業への取り組み**  
3D映画などの増加により、デジタルシネマはさらに普及が進むと想定しています。ノンシネマも景気の回復に伴い、案件が増加する見通しです。なかでもデジタルサイネージなど、ポストデジタルシネマに向けた事業の拡大を図っていきます。
- 2. 最先端露光事業の開発強化**  
エクストリームを核としたEUV(極端紫外)光源の開発を強化し、量産化を推進します。
- 3. 固体光源の事業展開**  
レーザ、LED、LD(レーザダイオード)など固体光源の事業展開を積極的に進め、ユーザニーズに合った光源を的確に提供できるよう製品のラインアップを拡充していきます。
- 4. 液晶・半導体・高精細プリント基板分野に貢献する技術・製品の提供**  
光源と装置の複合技術を活かした取り組みにより、これら業界に必要とされる製品を提供します。(光配向装置、半導体プリント基板用ステップなど)
- 5. 環境を念頭においた事業展開**  
ユーザからの省エネ、高効率製品のリクエストに対応し、環境配慮型製品を開発・事業化していきます。
- 6. 業務提携・合併事業・M&Aの積極的推進**  
磐石な財務体質を活かし、専門部門の新規開拓室において、業務提携、合併事業、M&Aを従来以上に積極的に推進し、事業化していきます。

数字で見るウシオ (連結ベース)

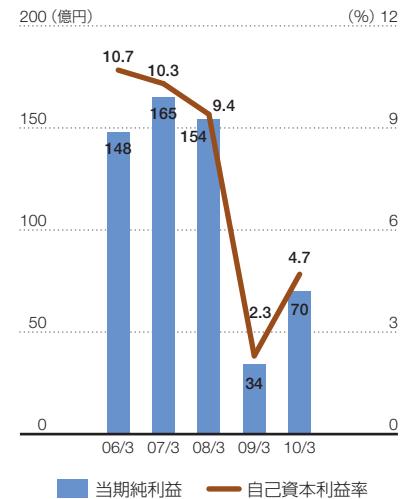
売上高



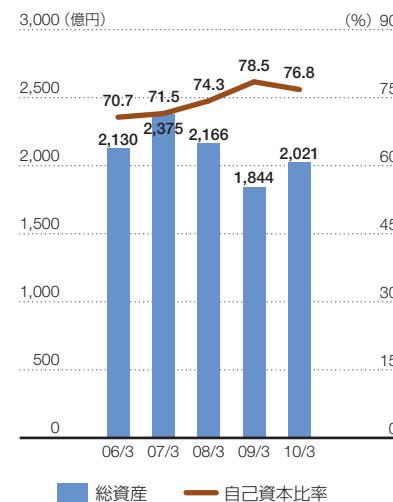
営業利益/売上高営業利益率



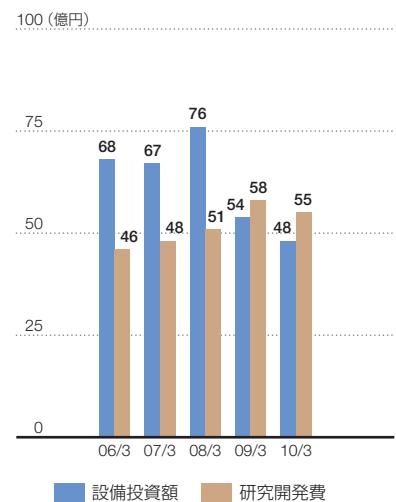
当期純利益/自己資本利益率 (ROE)



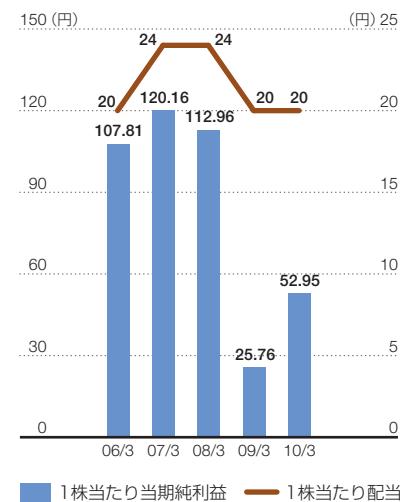
総資産/自己資本比率



設備投資額/研究開発費

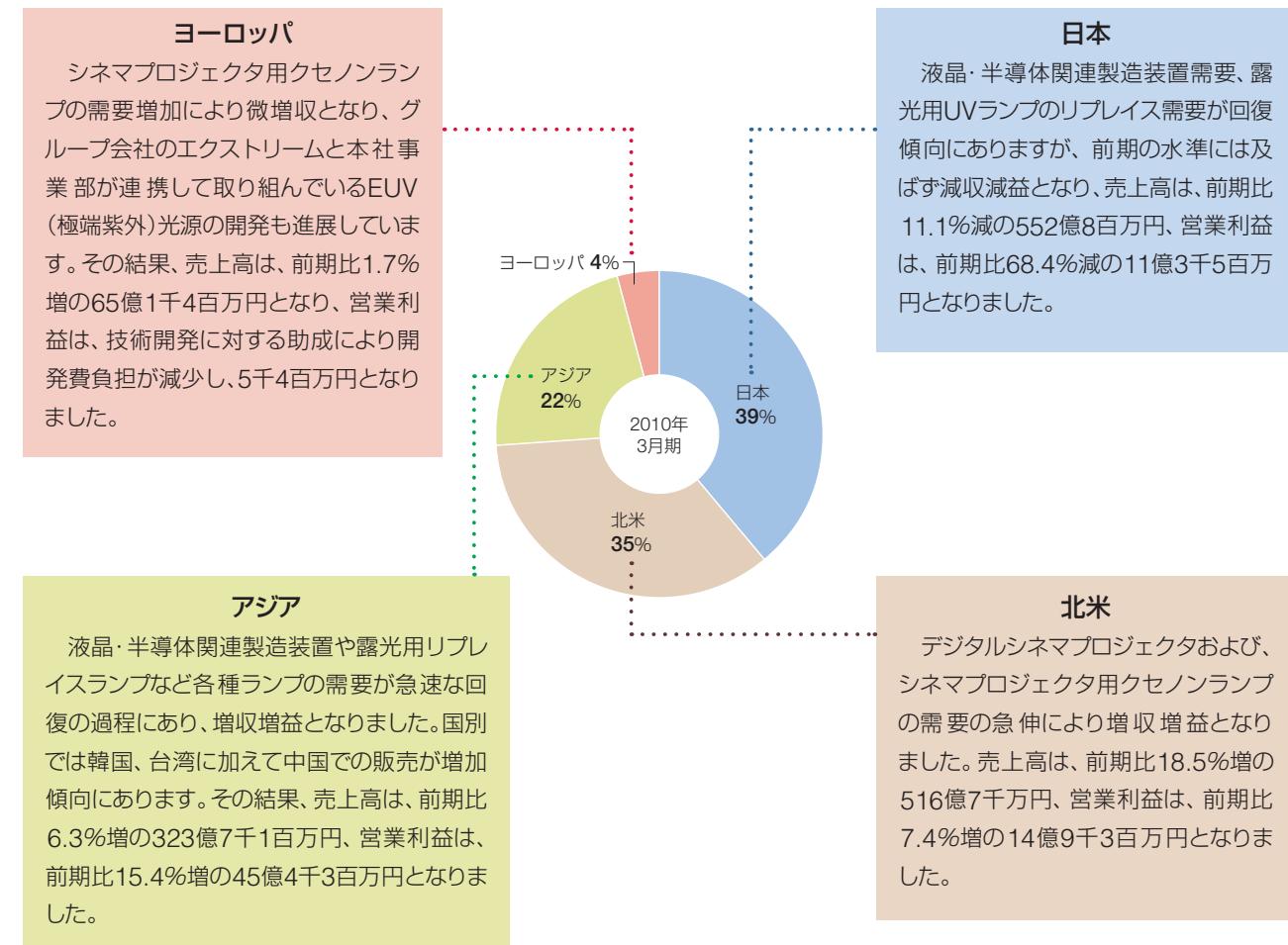


1株当たり当期純利益/1株当たり配当金



所在地別の業績

売上高構成比



ヨーロッパ

シネマプロジェクタ用クセノンランプの需要増加により微増収となり、グループ会社のエクストリームと本社事業部が連携して取り組んでいるEUV (極端紫外)光源の開発も進展しています。その結果、売上高は、前期比1.7%増の65億1千4百万円となり、営業利益は、技術開発に対する助成により開発費負担が減少し、5千4百万円となりました。

日本

液晶・半導体関連製造装置需要、露光用UVランプのリプレイス需要が回復傾向にありますが、前期の水準には及ばず減収減益となり、売上高は、前期比11.1%減の552億8百万円、営業利益は、前期比68.4%減の11億3千5百万円となりました。

アジア

液晶・半導体関連製造装置や露光用リプレイスランプなど各種ランプの需要が急速な回復の過程にあり、増収増益となりました。国別では韓国、台湾に加えて中国での販売が増加傾向にあります。その結果、売上高は、前期比6.3%増の323億7千1百万円、営業利益は、前期比15.4%増の45億4千3百万円となりました。

北米

デジタルシネマプロジェクタおよび、シネマプロジェクタ用クセノンランプの需要の急伸により増収増益となりました。売上高は、前期比18.5%増の516億7千万円、営業利益は、前期比7.4%増の14億9千3百万円となりました。

\* 所在地別売上高および営業利益は、セグメント間の内部売上高または振替高を含んだ数値を記載しています。

映像・画像分野



3D映画のヒットでデジタルシネマの普及が拡大

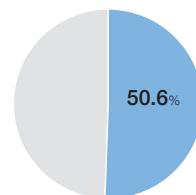
オフィスや学校、家庭で使用されるデータプロジェクタ市場は、中上位機種が伸び悩み、搭載される当社のランプも減収を余儀なくされました。しかし、世界的な3D映画のヒットにより、デジタルシネマプロジェクタ(DCP)の販売は急拡大し、前期実績の倍を上回る4,000台以上を販売しました。DCPに使用されるクセノンランプも増収となり、映像・画像分野全体では約15%の増収でした。

2010年度は、引き続き世界的にデジタルシネマが普及すると思われることから、DCPの販売台数およびクセノンランプの増収を見込んでいます。データプロジェクタ市場も、教育用を中心に市場が拡大すると見られ、当社のランプも出荷数量が増える見込みです。

主なグループ会社

CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS U.S.A., INC.  
CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.  
株式会社ジーベックス  
クリスティ・デジタル・システムズ 日本支社

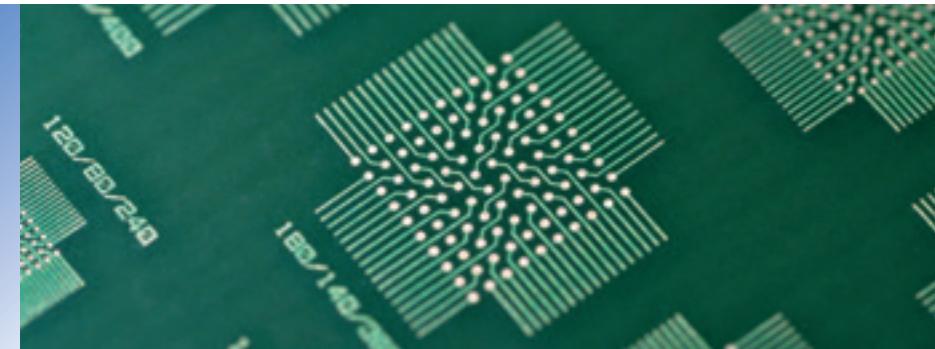
連結売上高に占める割合  
(2010年3月期)



売上高



エレクトロニクス分野



順調に回復するも、前期の業績に及ばず

ウシオは液晶・半導体・電子部品用の光源および装置を多数手がけています。各種露光工程に使用されるUVランプは、需要が収縮した時期に発生した競争環境の激化により、緩やかな回復に留まりました。

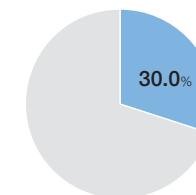
液晶、電子部品関連市場の設備投資は、中国を中心に回復が見られましたが、計画が一部後ろ倒しになったため、光学装置の業績回復が遅れ、エレクトロニクス分野全体では前期比約12%の減収でした。

2010年度は、液晶市場は中国などで投資が本格化すると同時に、世界的にパネル生産量も増えると予測されており、装置・ランプともに販売が増加する見通しです。半導体市場では、UVランプに加えて先端の半導体製造で使用されるレーザ光源を製造・販売するギガフォンの業績も、さらに改善する見込みです。

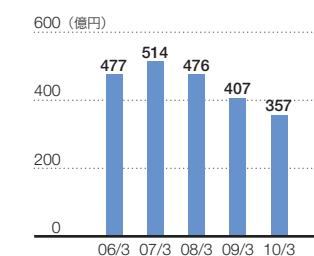
主なグループ会社

ギガフォトン株式会社  
XTREME technologies GmbH

連結売上高に占める割合  
(2010年3月期)



売上高



照明分野



省エネ・環境配慮型製品を強化

ウシオでは、商業施設や店舗をはじめ、ステージ、スタジオ、テレビ局などで使用される演色性の高いハロゲンランプや、高効率、長寿命といった特長を持つ放電ランプ、省エネ、環境負荷低減を実現するLEDなど、付加価値の高い照明用ランプを提供しています。

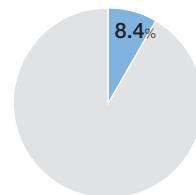
当期は、景気回復の遅れに伴い、照明分野関連製品は前期比で約12%の減収となりました。家庭用同様、今後は商業施設や店舗でもLED照明の積極的な導入が想定されることから、LED製品については特に、新製品の開発スピードを加速させていく計画です。LEDフィラメント電球Let(レット)は、LED素子をフィラメント状にマウントし、白熱電球が発する温かみのある光色、イメージ、雰囲気再現する効果が評価され、都内有名百貨店などでも採用されています。

主なグループ会社

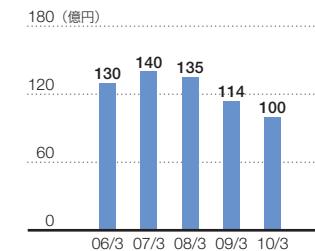
ウシオライティング株式会社  
株式会社ウシオスペース

連結売上高に占める割合

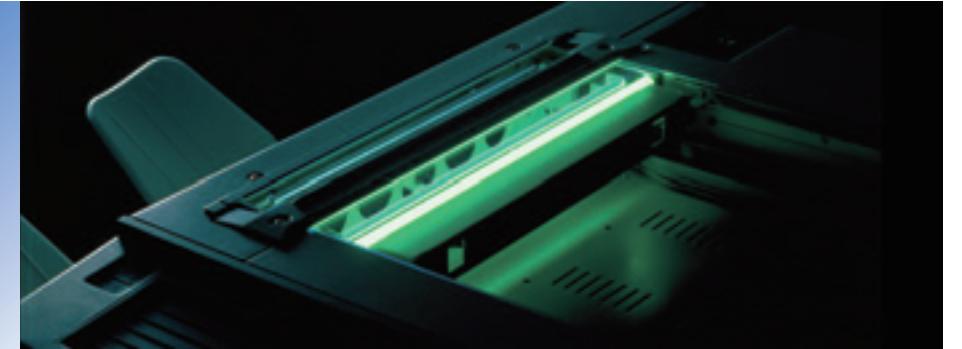
(2010年3月期)



売上高



OA分野



回復が遅れたOA機器市場

プリンタ・複写機などのOA機器には原稿読み取り用の希ガス蛍光ランプと、トナーを定着させるためのハロゲンランプが搭載されており、ウシオではこの2種類のランプの製造・販売を手がけています。OA機器業界は、企業が景気回復を見極めようとした結果、回復するタイミングが他市場より遅れ、ウシオのOA機器用ランプも前期比で約20%の減収となりました。

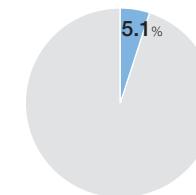
近年はユーザからの「省エネ」「省スペース」のリクエストに応えるべく新製品の開発を積極的に進めてきましたが、2010年度中にLEDを光源に採用した読み取り用モジュールの量産を開始し、主要OA機器ユーザへの拡販を行なっていきます。

主なグループ会社

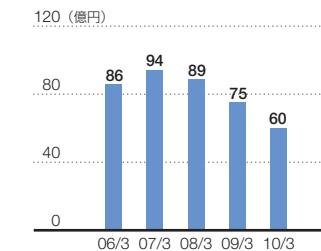
USHIO HONG KONG LTD.  
USHIO (SUZHOU) CO., LTD.

連結売上高に占める割合

(2010年3月期)



売上高



貸借対照表

				(単位:百万円)	
科目	第47期 (2010.3.31)	第46期 (2009.3.31)	科目	第47期 (2010.3.31)	第46期 (2009.3.31)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
流動資産①	112,722	102,706	流動負債	32,035	26,744
現金及び預金	37,865	28,220	支払手形及び買掛金	12,890	9,796
受取手形及び売掛金	31,482	27,380	短期借入金	4,822	7,180
有価証券	6,741	6,518	その他	14,322	9,767
商品及び製品	14,990	16,446	固定負債	13,398	11,882
仕掛品	5,326	5,357	長期借入金	1,413	3,888
原材料及び貯蔵品	6,322	6,989	繰延税金負債	8,211	4,480
繰延税金資産	3,703	3,109	その他	3,774	3,513
その他	6,823	9,212	負債合計②	45,434	38,626
貸倒引当金	△532	△529	<b>純資産の部</b>		
固定資産②	89,397	81,695	株主資本	148,643	144,250
有形固定資産	36,151	36,850	資本金	19,556	19,556
建物及び構築物(純額)	16,154	17,110	資本剰余金	28,371	28,371
機械装置及び運搬具(純額)	4,700	5,529	利益剰余金	109,925	105,524
土地	8,579	8,579	自己株式	△9,209	△9,201
その他	6,716	5,631	評価・換算差額等	6,572	469
無形固定資産	3,028	2,540	その他有価証券評価差額金	13,668	7,832
投資その他の資産	50,217	42,303	為替換算調整勘定	△7,096	△7,363
投資有価証券	46,440	37,648	少数株主持分	1,469	1,054
その他	3,776	4,654	純資産合計④	156,685	145,774
資産合計	202,119	184,401	負債純資産合計	202,119	184,401

POINT

①流動資産は前期末と比較して100億1千6百万円増加し、1,127億2千2百万円となりました。主な増加要因はグループ各社での「現金及び預金」の増加および期末に向けての商量の増加に伴う売上債権の増加であり、主な減少要因は、商量の増加に伴う「たな卸資産」の減少です。

②固定資産は前期末と比較して77億2百万円増加し、893億9千7百万円となりました。主な増加要因は株式市況が回復したことによる「投資有価証券」の評価益の増加であり、主な減少要因は、設備投資の抑制による有形固定資産の減少です。

POINT

③負債は454億3千4百万円となり、前期末に比べ68億8百万円増加しました。主な増加要因は、期末に向けての商量の増加に伴う仕入債務の増加および株式市況が回復したことによる「投資有価証券」の評価益の税金部分である「繰延税金負債」の増加です。

④純資産は1,566億8千5百万円となり、前期末に比べ109億1千万円増加しました。主な増加要因は、当期の「利益剰余金」および保有投資有価証券の評価益に伴う「その他有価証券評価差額金」の増加です。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

		(単位:百万円)	
科目	第47期 (2009.4.1~2010.3.31)	第46期 (2008.4.1~2009.3.31)	
売上高⑤	119,079	120,846	
売上原価	82,666	81,644	
売上総利益	36,413	39,202	
販売費及び一般管理費	29,150	30,238	
営業利益⑥	7,262	8,963	
営業外収益	2,767	4,349	
営業外費用	739	3,321	
経常利益⑦	9,290	9,991	
特別利益	176	7	
特別損失	554	4,456	
税金等調整前当期純利益	8,912	5,542	
法人税等合計	1,479	1,839	
少数株主利益	362	221	
当期純利益⑧	7,071	3,481	

キャッシュ・フロー計算書

		(単位:百万円)	
科目	第47期 (2009.4.1~2010.3.31)	第46期 (2008.4.1~2009.3.31)	
営業活動によるキャッシュ・フロー⑨	18,999	11,873	
投資活動によるキャッシュ・フロー⑩	△12,714	△3,194	
財務活動によるキャッシュ・フロー⑪	△4,760	△7,588	
現金及び現金同等物に係る換算差額	△259	△1,461	
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,265	△371	
現金及び現金同等物の期首残高	27,329	27,700	
現金及び現金同等物の期末残高	28,595	27,329	

POINT

生産性の向上や製造コストの低減、経費の圧縮、海外展開強化に向けた販売体制の整備・拡充、海外生産シフトの促進など、引き続き全グループを挙げて業績の向上に注力しましたが、全世界的な景気減速の影響を受け、⑤売上高で前期比1.5%減の1,190億7千9百万円、⑥営業利益で前期比19.0%減の72億6千2百万円、⑦経常利益で前期比7.0%減の92億9千万円、⑧当期純利益で前期比103.1%増の70億7千1百万円となりました。

POINT

⑨営業活動によるキャッシュ・フローの主な要因は、税金等調整前当期純利益の計上89億1千2百万円、減価償却費の発生62億1千9百万円、たな卸資産の減少33億2千4百万円、および仕入債務の増加26億9千2百万円があり、一方で売上債権が38億9千万円増加したことによるものです。

⑩投資活動によるキャッシュ・フローの主な要因のうち、収入は定期預金の払戻による144億2百万円、有価証券の売却及び償還による31億5千万円でした。支出は、定期預金の預入236億2千万円、有形固定資産の取得48億7千4百万円、事業譲受14億5千万円でした。

⑪財務活動によるキャッシュ・フローの主な要因は、配当金の支払額26億7千5百万円、短期借入金の純減少額24億3千4百万円の支出と、長期借入れによる収入が4億6千3百万円あったことによるものです。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

第47期 (2009.4.1~2010.3.31)	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算差 額等合計		
2009.3.31残高	19,556	28,371	105,524	△ 9,201	144,250	7,832	△ 7,363	469	1,054	145,774
当期変動額										
剰余金の配当(注)			△ 2,671		△ 2,671					△ 2,671
当期純利益			7,071		7,071					7,071
自己株式の取得				△ 7	△ 7					△ 7
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						5,835	267	6,102	414	6,517
当期変動額合計	-	-	4,400	△ 7	4,392	5,835	267	6,102	414	10,910
2010.3.31残高	19,556	28,371	109,925	△ 9,209	148,643	13,668	△ 7,096	6,572	1,469	156,685

(注) 2009年6月の定時株主総会における利益処分項目です。

(単位:百万円)

第46期 (2008.4.1~2009.3.31)	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算差 額等合計		
2008.3.31 残高	19,556	28,371	105,323	△5,127	148,122	17,150	△4,313	12,837	1,132	162,092
当期変動額										
剰余金の配当(注)			△3,279		△3,279					△3,279
当期純利益			3,481		3,481					3,481
自己株式の取得				△4,073	△4,073					△4,073
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△9,317	△3,049	△12,367	△77	△12,445
当期変動額合計	-	-	201	△4,073	△3,872	△9,317	△3,049	△12,367	△77	△16,317
2009.3.31 残高	19,556	28,371	105,524	△9,201	144,250	7,832	△7,363	469	1,054	145,774

(注) 2008年6月の定時株主総会における利益処分項目です。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS U.S.A., INC.

デジタルシネマプロジェクトなどの製造・販売を行なうクリスティは、各種LED製品も扱っています。なかでも、LCDやプラズマ、液晶より遥かに広い色相と彩度を実現した「クリスティ® マイクロタイル™」は、ボックス型のディスプレイをタイルのように自由な形に組み合わせられる世界初のモジュラー型ディスプレイモニターです。シネマ、ノンシネマに続く第3の映像事業「デジタルサイネージ」の戦略的製品として、市場の拡大が期待されています。

NECSEL INTELLECTUAL PROPERTY, INC.

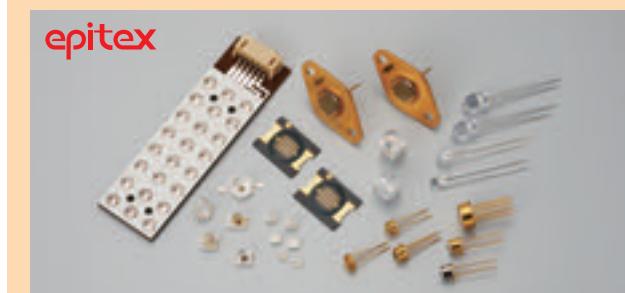
赤外波長域および可視波長域の大出力レーザを開発、事業化するため、2008年11月に設立。シンプルな構造でありながら高い波長変換効率と信頼性を有する、小型高出力レーザを実現するとともに、ウェハプロセスと同じプロセスで製造することが可能なため、自動化などによる低コスト化が期待できます。現在、半導体レーザを特殊照明、デジタルシネ



マプロジェクト、レーザテレビ、データプロジェクトなどの光源として活用することを目指し、研究開発を進めています。

株式会社エピテックス

赤外線領域を中心に特色ある製品を有するLEDメーカー。多品種少量生産に適した結晶成長製造法に強みを持ち、同業トップクラスの技術力を保有しています。一般監視用や、ETCゲート監視照明用などのカスタムメイドで高出力な赤外線LEDを販売する一方で、生体認証、自動車関連、医療、産業用光センサなどの用途開拓にも注力しています。



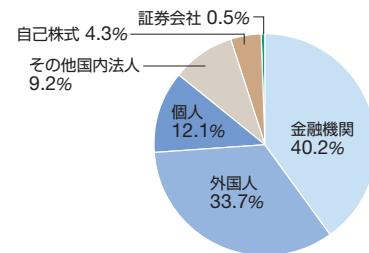
発行済株式総数…………… 139,628,721株  
株主…………… 14,775名

大株主の状況 (200万株以上)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,431	6.75%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,344	5.25%
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,663	4.77%
ガバメント オブ シンガポール インベストメント コーポレーション ビー リミテッド	6,358	4.55%
オーエム04 エスエスピー クライアント オムニバス	4,651	3.33%
アールービーシー デクシア インベスター サービスーズ トラスト, ロンドン レンディング アカウト	4,501	3.22%
朝日生命保険相互会社	4,477	3.20%
ニッセイ同和損害保険株式会社	3,964	2.83%
株式会社りそな銀行	3,616	2.58%
牛尾治朗	3,201	2.29%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・株式会社りそな銀行退職給付信託口)	3,049	2.18%
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	2,535	1.81%
財団法人ウシオ育英文化財団	2,400	1.71%
ノーザン トラスト カンパニー (エイブイエフシー)	2,387	1.70%
サブ アカウト アメリカン クライアント	2,387	1.70%
サジャップ	2,078	1.48%

※ 上記のほか、当社が所有している自己株式6,082千株があります。  
※ 大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式主義人となっているものです。  
また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

株式の分布状況



設立 1964年3月  
資本金 19,556,326,316円

役員 (2010年6月29日現在)

代表取締役会長	牛尾 治朗
代表取締役社長	菅田 史朗
取締役	後藤 学
取締役	大島 誠司
取締役	浜島 健爾
取締役	多木 正
取締役	牛尾 志朗
取締役	多田龍太郎
取締役	伴野 裕明
取締役	徳廣 慶三
常勤監査役	中一 進
常勤監査役(社外)	物江 理
常勤監査役	中山 繁樹
監査役(社外)	服部 秀一
監査役(社外)	宮崎 靖亮

従業員数 (2010年3月31日現在)

ウシオ電機本体	1,737名
国内グループ計	489名
海外グループ計	2,506名
合計	4,732名

グループ会社 (2010年3月31日現在)

ウシオ電機株式会社

本社	東京都千代田区
播磨事業所	兵庫県姫路市
御殿場事業所	静岡県御殿場市
横浜事業所	神奈川県横浜市
東京営業本部	東京都千代田区
大阪支店	大阪市淀川区

国内グループ会社

ウシオライティング株式会社	兵庫県ウシオライティング株式会社
筑波ウシオ電機株式会社	株式会社ジーベックス
株式会社ウシオスペース	ギガフォトン株式会社
日本電子技術株式会社	株式会社エピテックス

他4社

海外グループ会社

北米

- USHIO AMERICA, INC.
- USHIO CANADA, INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS U.S.A., INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC.
- CHRISTIE MEDICAL HOLDINGS, INC.
- NECSEL INTELLECTUAL PROPERTY, INC.
- VISTA CONTROLS SYSTEMS, CORP.

欧州

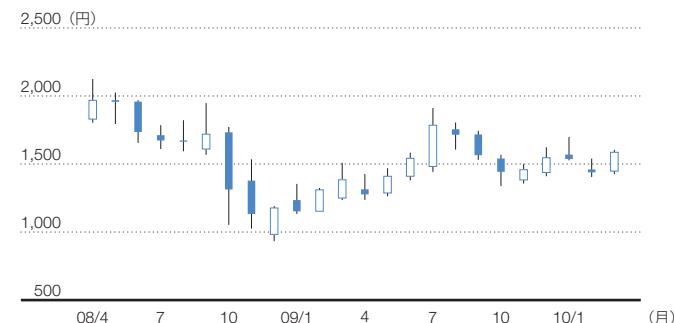
- USHIO EUROPE B.V.
- USHIO FRANCE S.A.R.L.
- USHIO DEUTSCHLAND GmbH
- USHIO U.K., LTD.
- BLV Licht-und Vakuumtechnik GmbH
- Dipl.-Ing. Reinhold Eggert GmbH
- NARIUM Sp. z o.o.
- XTREME technologies GmbH

アジア

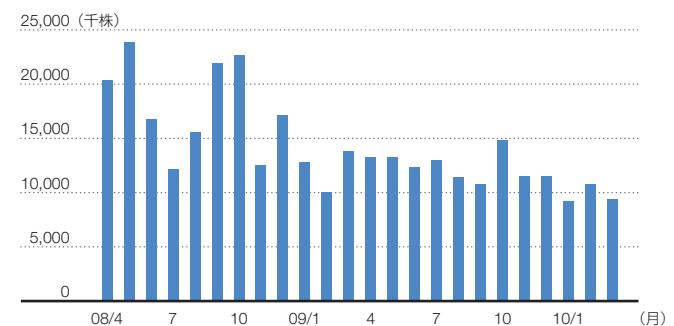
- USHIO HONG KONG LTD.
- USHIO TAIWAN, INC.
- USHIO PHILIPPINES, INC.
- USHIO (SUZHOU) CO., LTD.
- USHIO SINGAPORE PTE LTD.
- USHIO KOREA, INC.
- USHIO SHANGHAI, INC.
- USHIO SHENZHEN, INC.
- TAIWAN USHIO LIGHTING, INC.

他10社

株価の動き



株式売買高



## 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。
利益配当金受領	3月31日
株主確定日	なお、中間配当制度は採用しておりません。
公告掲載URL	<a href="http://www.ushio.co.jp/kokoku">http://www.ushio.co.jp/kokoku</a> ※やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
1単元の株式数	100株

株式銘柄コード	6925
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 <b>0120-78-2031 (フリーダイヤル)</b> <a href="http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html">http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html</a> (ホームページ)
同 取 次 窓 口	中央三井信託銀行株式会社 本店および全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

### 住所変更、単元未満株式の買取などのお申出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

### 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

### 「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主さまにつきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社などで行ないます。確定申告を行なう際の添付資料につきましては、お取引のある証券会社などにご確認をお願いいたします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主さまにつきましても、配当金の支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をされる株主さまは、大切に保管ください。

発行：ウシオ電機株式会社 広報IR室

〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1

TEL: 03-3242-1815 FAX: 03-3245-0589

<http://www.ushio.co.jp>

**P・R・I・S・M** PRISM(プリズム)は透明な光学ガラスでできた多面体で、光を分散・屈折・反射させるときに用います。「PRISM」は、光を柱に事業を展開するUSHIOの今と未来を多面的に取り上げ、株主や投資家の皆さまにお伝えする情報誌です。ウシオISMをPRし、理解を深めていただく編集意図もこめて、名づけました。



この印刷物は、環境に優しい再生紙と、大豆インキを使用しています。